

(1) 令和元年度第2回高齢者専門分科会（書面協議）における意見・質問について

令和2年6月30日（火）
 福祉部 介護保険課・高齢福祉課
 地域包括ケア企画課

(1) 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に関する意見				
No.	前回関連資料	種別	意見・質問	回答
1	議題1 I 【ページ：4】	意見	若年性認知症支援に精力的に取り組んでいる点は先駆的である。一方で彼らのニーズの中には、就労の維持継続を支援して欲しいというものがあり、それは議題1「I」のイメージにある「社会参加」一般より、個別具体的なものだと考えられる。就労にまつわるニーズへの対応には、回復期病院や企業自体の参画が必要で一筋縄ではいかないが、視野に入れてあることを表現しておいてもよいではないか。	社会参加支援については、本人が望むボランティア活動から企業等を巻き込んだ継続的な就労まで幅広い意味での社会参加を想定しておりましたが、資料ではその部分が明確になっていなかったため、今後は分かりやすい表現にしていきます。
2	議題1 II	質問	実態調査のアンケートでは男女について回答する項目があったがアンケート結果に男女比がないのはなぜでしょうか。それぞれの質問と回答はとても参考になる資料だったのでここに性差があったのかどうかも知りたいと思いました。	前回お渡しした実態調査のアンケートは、調査結果の概要をまとめたものになります。実態調査の報告書（本編）には、性別や年齢などとクロス集計した分析結果を掲載しております。本日の分科会で報告書（本編）を用意させていただきましたので、必要な方はぜひお持ち帰りください。
3	議題1 III 【ページ：5】	質問	財政的インセンティブで獲得した交付金の使途について	約5千5百万円の交付金を特別給付費「おむつ購入費の支給（おむつ券）」に充当しています。在宅で介護を受ける要介護認定者のうち、おむつが必要と判断される方に対し、1か月につき3,000円を上限とし、購入費の9割を補助します。当該交付金は、高齢者の市町村の自立支援・重度化防止等に向けた取組を支援し、推進することが趣旨とされており、8期計画の策定において、それを達成するための施策を立案し、充当していく予定です。
4	議題1 III 【ページ：5】	質問	PDCAサイクルの活用による保険者機能の強化に向けた体制等の構築とありますが、このサイクルは具体的にどのように回っていくのか？	「7期計画（Plan）において設定した目標がどの程度達成されているか(Do)」、「達成・未達成の分析がなされ(Check)、その原因に對し対応しているか（Act）」、このサイクルが機能しているかどうか問われている指標です。7期計画における各目標の進捗管理を適切に実施することで、保険者機能の強化を図ります。
5	議題2	意見	第2次豊田市地域福祉計画・地域福祉活動計画の基本目標1「地域の支え合いの仕組みづくり」において、地域の最小単位は組と考えます。組の単位で支え合う活動への仕掛け・支援策等も行政で考えて頂けると有難いと思います。	「地域の支え合いの仕組みづくり」については、各地区（支所単位）に配置されるCSW（コミュニティソーシャルワーカー）が中心となって住民による地域活動の立ち上げや支援を行っていきます。具体的には、各地域の課題について住民と情報共有を進め、課題解決に向けた具体的な取組を立ち上げることを推進していきます。CSWの配置は支所単位となりますが、地域の実情に応じて、組単位でも活動への仕掛け・支援等を行っていきます。
(2) 地域包括支援センター運営協議会に関する意見				
No.	前回関連資料	種別	意見・質問	回答
1	議題6 【ページ：7】	意見	「多職種で自立支援を考える会」の運用が、1事例30分で設定されているが、時間の短いケースの検討は医学モデル的なものになりやすいため、本人像を明らかにしたりICF（国際生活機能分類：「より良く生活するためにどうするか」考える際の生活機能と障害の分類法）を踏まえた事例の理解を怠らないものにして欲しい。和光市や豊明市のモデルはやや医学モデル的だと感じています。	いただいた御意見のとおり、検討をする中で身体的な自立支援や介護予防に焦点が当たることがあります。会の中で使用するケース概要には、本人の望む暮らしや社会参加の状況について記載するようにしていることと、短い時間の中で参加者からよい提案をいただけるよう生活の状況を図にするなどして試行錯誤している状況です。また、参加者は社会福祉士や生活支援コーディネーターの医療系以外の職種も多く参加しているため、引き続き事例を理解する際に多職種の視点を取り入れていきます。